



# がんセンターたより



## がんセンター 病院長に就任して

病院長 小林 理

平成21年4月1日付で病院長に就任しました。伝統あるがんセンターの病院長に就任し、今ひしひしと、責任の重さを実感しています。この3年間は総合整備推進室長として4年後のがんセンター創りをもっばら行ってきました。新たながんセンターでは患者さんが「やっばがんセンターに来てよかった じゃんかよー」といっていただける病院創りをめざして来ました。その検討の中では、総合整備推進室の皆さんと現病院の問題点を洗い出し、それを解決すべき取り組みとして患者さんの療養環境の向上、待ち時間の短縮、高度・最新のがん医療の提供、患者サービスの向上の4項目を中心とした総合整備を行うことにしました。病院長になった今の心境は、新病院までの「あと4年」もの間、現状の病院で都道府県がん診療連携拠点病院として機能し続けなければならないことがとつてもとつても心に重くのしかかっています。今後は大崎所長の指示を仰ぎながら、職員の皆さんのご協力をいただき、微力ではありますが、大任を果たしていきたいと思っています。どうかよろしくお願い申し上げます。

さて、県立病院は大きな転換期に来ており、独立行政法人化に向け、職員説明会で明らかにされた変革がなされていきます。これは三つの視点に立った公立病院改革ガイドラインで示された経営形態の見直しにそった改革です。経営形態の見直しについては地方公営企業法全部適用；地方独立行政法人化（非公務員型）；指定管理者制度の導入；民間委譲の4つの選択肢を示しています。現在のがんセンターは地方公営企業法全部適用ですが、より改革を進めるべく非公務員型の独法化を神奈川県は選択しました。しかし、最近、社会医療法人化される民間病院が急増しています。これは公立病院改革の流れとして、公立病院 地方公営企業法全部適用 非公務員型地方独立行政法人化 公設民営化 民間移譲（受け皿としての社会医療法人制度）と進むシナリオを無視することはできません。

医療は「社会的共通資本としての非営利事業」と明確に位置づけられています。戦後の混乱期「一般医療の充足と、結核や伝染病などの特殊医療の補完」こそが自治体病院の使命であると誰もが認識し、税の投入に対して何の異論もありませんでした。一方、民間病院は経営努力によって地域医療に大きく貢献するようになってきました。民間病院は「経営が安定する医療」を中心とした計画をたててきましたが公立病院は「社会のニーズを充足」することを目的に病院整備を行ってきました。その結果、公立病院は民間病院が手を出しにくい「へき地・離島医療」；「周産期・小児医療」；「救命・救急」といった、不採算医療が中心という状況に陥りました。今後、私たちは「税金が投入されている公立病院の医療と、税金を支払っている民間病院の医療は、どこがどう違うのか」を県民に分かりやすく提示していく必要があります。

来年度は診療報酬が改定されます。総医療費が抑制される中、開業医や前段の不採算医療には医療費が重点的に配分され、その結果、がん専門病院は診療報酬上で報われない「格差社会」が到来すると予測されます。従って、私たちは保健医療制度における厚労省の意図する評価を見極め、それに沿った体制の整備も必要となります。DPCでは入院基本料の中に医師や看護師、コ・メディカルの技術料が全て含まれています。外科医や麻酔医の技術料は薬品代を含めて別途加算されますが内科医の技術料は全く無視されています。入院患者さんへの点滴や内服薬での治療説明を医師や看護師が行ってもすべて入院基本料に包括されてしまいます。しかし、抗がん剤等の医薬品が投薬又は注射されている患者さんに対して薬剤師が管理指導（説明）すると「薬剤管理指導料」としてかなりの額が毎週算定可能となります。即ち、病院薬剤師の本来業務は薬学的管理指導であり、それに対しては高額な技術料を支払うという考え方です。「経営の改善」と「公共性の確保」というそう反する命題に対して新病院までの期間は「限られたスペースと人材の有効活用による医療の質の向上と経営の改善」をキーワードに取り組みを進めたいと思います。

県民の求めている医療を提供して県民の健康を守ることは、当院の最も基本的な要件です。そのために、職員は多様な価値観を持っている県民の心や空気に敏感になり、社会との価値観のズレをなくし、患者さんに対

そくいん

しては「惻隱の心」で接していただきたいと思ひます。昨年の医療事故に関する事故調査委員会報告で、外部委員は「本件事故に関係した医師、看護師のみならず、がんセンター管理者を含めた全病院関係者が、本件事故の結果の重大さと悲惨さを繰り返し確認、反省すると同時に、今後とも患者さん及び御家族との関係を良好に保ちながら医療者及び公的機関として実施可能な支援を積極的かつ誠実に継続することを強く期待する」と指摘しており、この県民の心を決して忘れてはならないのです。

最後に、職員の皆さんが自分たちの仕事の目的を明確にし、専門性とプライドを持って、自らを律する努力と高いモチベーションを維持しながら業務に取り組むことができるような「品格」ある神奈川県立がんセンターを引き続き運営していきたいと思ひますので再度宜しくお願い申し上げます。



### 就任のあいさつ

総務局長 安西 保行

この度、4月1日付けでがんセンター総務局長に赴任しました安西保行でございます。入庁し30年になりますが、これまで内部管理の仕事が中心で病院や衛生部での経験はなく、医療用語などに四苦八苦する日々ですが、皆さんと一緒に県民に良質な医療を提供する仕事に携わらせていただくことになり、心より喜んでおります。

今、がんセンターは大きな変革期を迎えております。私が申すまでもなく皆さん十分に承知されていることですが、県立病院は来年度からは地方独立行政法人へ移行されます。これにより経営の自由度が高まり、財務、組織、人事管理などの制度的、実態的な制約から解放され柔軟で弾力的な病院経営が可能になりますが、収益確保とサービス拡充といった面で今まで以上に経営責任が問われることとなります。

県では平成17年3月に「がんへの挑戦・10カ年戦略」を策定し、様々な取組を行っておりますが、がんセンターの機能強化もその中に位置づけられ、PFI手法による総合的整備も2者から入札参加の表明を受け、平成25年度完成引渡しに向け着実に進んでおり、一日も早い完成が期待される所です。さらには平成26年度に国内では4カ所目となる重粒子線治療装置の導入も予定されております。

患者さん一人ひとりのご満足は、施設・医療器具の充実と共に高い医療技術とそれを支える様々な業務を行

う職員の力が一つになることによりはじめて実現できるものと考えております。残念ながら施設の老朽化は年々進み、職員の皆さんにとっても働きづらい環境となっておりますが、新病院ができるまでの4年間しばらくご辛抱頂き、私といたしましてはがんセンターに勤務する職員一人ひとりが少しでも快適にかつ前向きに勤務できるよう、予算や人員の確保や勤務条件の改善など働きやすい職場環境の構築をめざし、微力ながら努めていきたいと考えております。

皆さん、何卒ご協力のほどよろしくお願い致します。



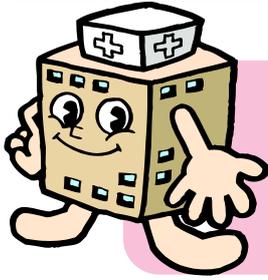
### がんセンターに戻って改めて感じたこと

副看護局長 矢野 久美子

私は、がんセンターから足柄上病院に転勤して3年ぶりに戻って参りました。違う病院を経験したことで改めて『がんセンターの良さ』を感じました。その一つめは、どの職種の方々も笑顔で暖かく心から歓迎して下さり、「暖かさ」と繋がりを大切にするスタッフがいる安心感を感じました。二つめは、組織が大きすぎず、顔が見える規模で整備されており、「協働しやすい組織体制があること」です。三つめは、「がん医療や看護の人材が豊富」で、特に看護においては、専門看護師や認定看護師など専門領域を持つ看護師が院内外で活躍しています。そして、「領域に限らず一人一人の看護師が学習と看護実践力を積み重ね、後輩を育成し組織として成長し続けていること」でした。離れてみて改めて、がんセンターの良さを感じ、この三つの良さはセンターにとっては『強み』であると実感しました。

この3年間の間に、センターは、都道府県がん診療拠点病院の指定、病院機能評価のVer.5の更新など様々な変化を遂げています。将来に向けては、7:1入院基本料に向けての大量の看護師の獲得、新総合整備に向けた準備など、大きな課題が待ち受けていますが、『強み』を糧に私自身も皆様のお力をお借りして精一杯努力していきたいと思ひます。どうぞご指導の程、よろしくお願い致します。





# 平成21年度 新任紹介

職員の異動がありましたのでご紹介します。  
(紙面の都合上、管理職、医師、看護科長、薬剤科部長、医療技術部技師長の紹介に限らせていただきました。)

## 管理職



副所長兼病院長  
小林 理



副院長兼総合整備推進  
室長兼消化器外科部長  
赤池 信



総務局長  
安西保行



副看護局長兼  
看護教育科長  
矢野久美子



副総務局長兼  
総務課長  
古関 進



## 医療局 (診療科部長)



乳腺甲状腺外科(乳腺)  
部長 清水 哲



消化器外科(肝胆膵)  
部長 森永聡一郎

## 医療局 (常勤医師)



血液科  
医長 田中正嗣



血液科  
医師 高崎啓孝



化学療法科  
医師 藤田敦子



消化器外科(大腸)  
医師 稲垣大輔



消化器外科(肝胆膵)  
医長 山本直人



婦人科  
医長 高橋 肇



婦人科  
医師 長谷川哲哉



泌尿器科  
医長 塩井康一



放射線診断科  
医長 鳥井郁雄



緩和医療科  
医長 太田周平

医療局 (常勤医師) つづき



麻酔科  
医長 小林浩子



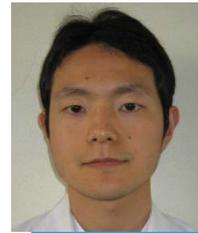
麻酔科  
医長 佐藤美菜子



血液科  
医師 立花崇孝



化学療法科  
医師 青島朋裕



消化器内科(肝胆膵)  
医師 小林 智



麻酔科  
医長 石川智美



麻酔科  
医師 牧瀬杏子



頭頸部外科  
医師 八木宏章



消化器外科(大腸)  
医師 田村周三



婦人科  
医師 塚田ひとみ

看護局(看護科長)



看護科長(A棟6階)  
下原口文枝



看護科長(A棟8階)  
丹治友子



看護科長(B棟7階)  
久保田顕子



薬剤科  
部長 高田明美

医療局 (薬剤科)

医療局 (医療技術部)



放射線第一科  
技師長 千葉信之



検査第三科  
技師長 大島 泉



木根淵康平



堀内俊治



生駒陽一郎



土橋人士



本田 健



亀田 亮

レジデント (第23期生)



## 患者さん満足度調査結果報告

「患者さん満足度調査」は当センターの診療、食事等について、患者さんの視点からご判断いただき、より良い診療に結びつけるために、また、よりニーズに即したお食事をご提供するため実施させていただいたものです。前年度も同様な調査項目については、参考までに前年度の調査結果を（ ）で示しました。

### 外来患者さん満足度調査結果報告

- 1 調査期間等：平成21年2月2日(月)、4日(水)、5日(木)の3日間

調査期間中は2,096人の外来患者さんが来院されました。3日間の調査期間中に1,416部配布いたしまして、1,337人の方から回答をいただきました。回収率は94.4%と大変多くの方から率直なご意見を頂くことが出来ました。紙面の都合上その主な項目をご報告いたします。

#### 回答者数



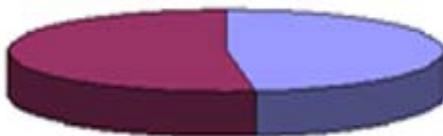
- 2 患者さんご自身について

回答いただいた性別では、前年度と同様女性が若干上回っていました。

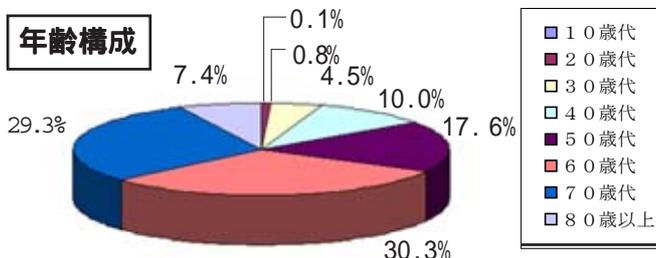
年齢では60歳代を中心に50歳代から70歳代で77.2% (76.3%) となっています。

#### 性別

女性 52.2% 男性 47.8%



#### 年齢構成



- 3 職員の対応について

「満足」と「やや満足」を合すると(以下「満足度」といいます。)ほぼ50%を超えており、概ね満足されていると思われます。

- 「医師」については、「主治医は優しく温かいと感じましたか。」との回答では74.1% (82.6%) で最も高くなっていますが、前年度と比較すると8.5ポイント低下しています。

また、「不満」と「やや不満」を合すると(以下「不満度」といいます。)最も高かったのは、「十分な時間を取って診察したと感じましたか。」の項目で10.5% (11.5%) と唯一2桁になっています。(次頁 図1)

- 次に「看護師」については、各項目で満足度が60%を超えており、職種別で比較しても満足度は最も高くなっています。中でも「看護師は優しく温かいと感じましたか」の回答が70.3% (80.7%) となっています。前年度と比較すると医師と同様に10.4ポイント低下しています。(次頁 図2)

過去3年間の統計がある項目について見てみますと、全体的に満足度が低下する一方不満も低下し、「普通」のポイントが高くなっている傾向が見られます。

- 4 待ち時間について

いずれの待ち時間も満足度は低くなっていますが、特に初診の待ち時間や診療の待ち時間については、低くなっています。(次頁 図3)

診療に関する待ち時間については少しでも短縮できるように予約枠の人数の調整や診療時間の拡大など様々な工夫をしているところですが、アンケートの結果からは、必ずしも満足をいただけるような状況になっていないことが窺われます。今後とも引き続き改善に向け努めてまいりたいと存じます。

- 5 当院の情報提供について

当院のどのような情報が知りたいかとの質問については、「同じ病気の治療件数」は「とても知りたい」と「知りたい」を合すると85.7% (77.1%) で、前年度と比較すると、「どちらでもよい」が8.5ポイント減少し、知りたい方が8.6ポイント上昇しています。

これらの状況は「再発率・生存率などの治療成績」、「主治医の治療経験」についても同様な傾向があり、いずれも前年度に比較すると上昇しています。

今後とも、ホームページなどを利用し情報提供に努めてまいります。

- 6 全体的な満足度について

「外来で受けた医療に関してどうお感じですか」について、前年度と比較すると「満足度」が21.5ポイント低下し65.9%となっており、「普通」が19ポイント上昇し29.3%、「不満度」が1.3ポイント上昇し

3.6%となりました。

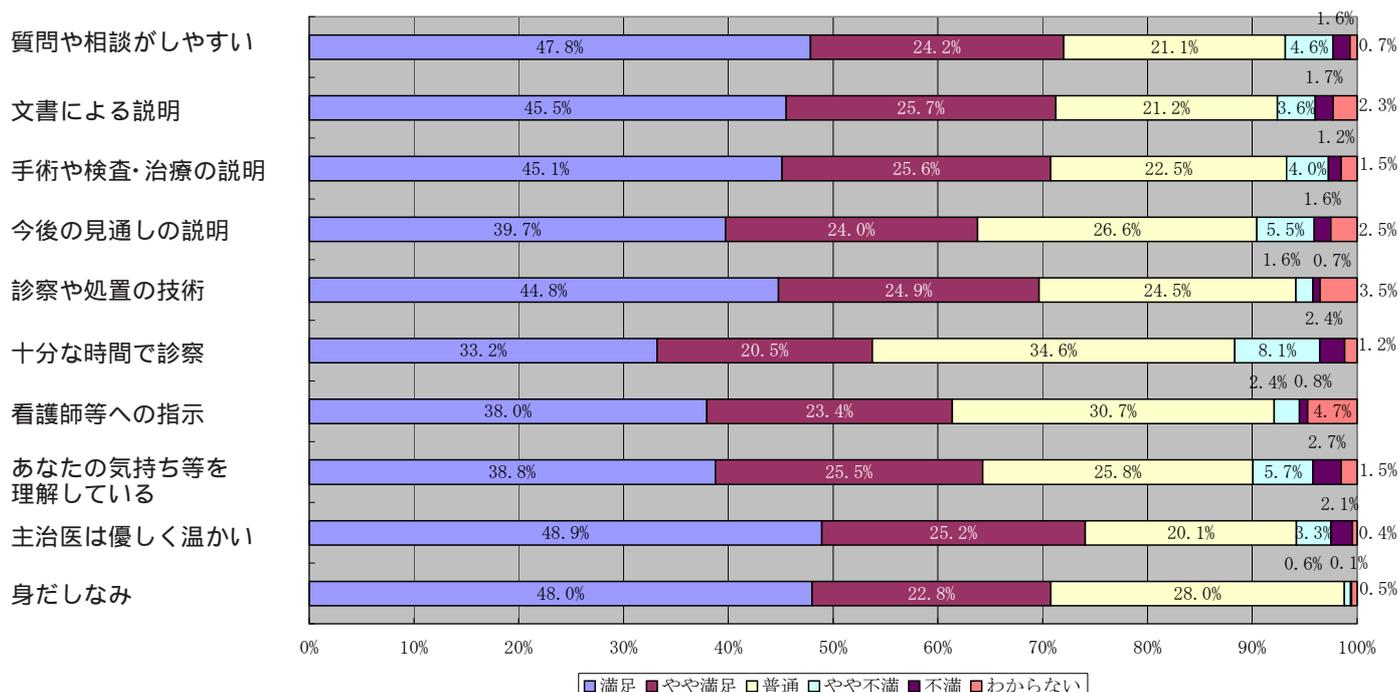
このような満足度が低下し「普通」が上昇するという傾向は、各質問項目でも散見されました。

### 7 終わりに

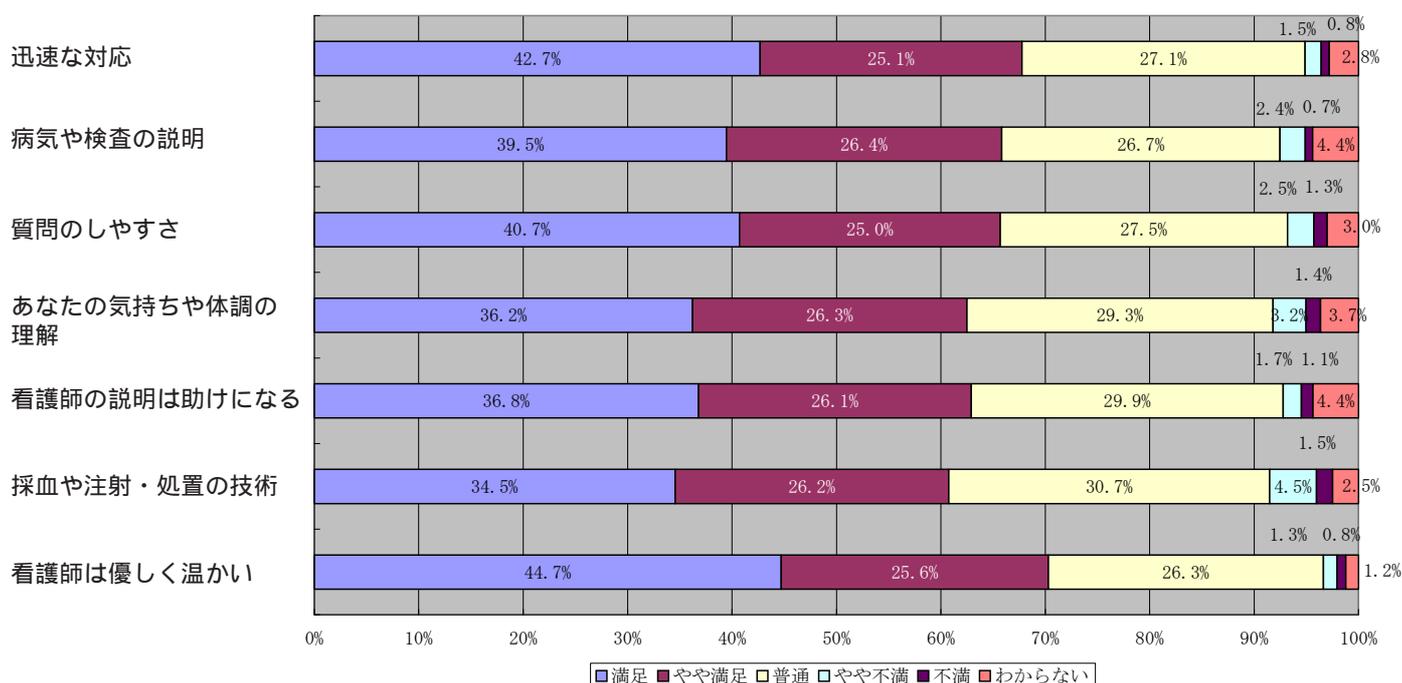
今回のアンケートでは、回答の選択肢に不十分な点がありましたこととお詫びすると共に、次回実態に即した選択肢になるように改善を図ってまいります。

す。また、皆様からいただいたご意見をもとに検討を行い、より多くの患者さんにご満足いただけますよう努めてまいりたいと存じます。また、施設面の改善のご意見については、新たながんセンターの建設計画が進んでいる折り、大規模な改修は困難ですが、緊急やむを得ないものなど優先順位を付け、可能な限り改善に努めてまいりたいと存じます。

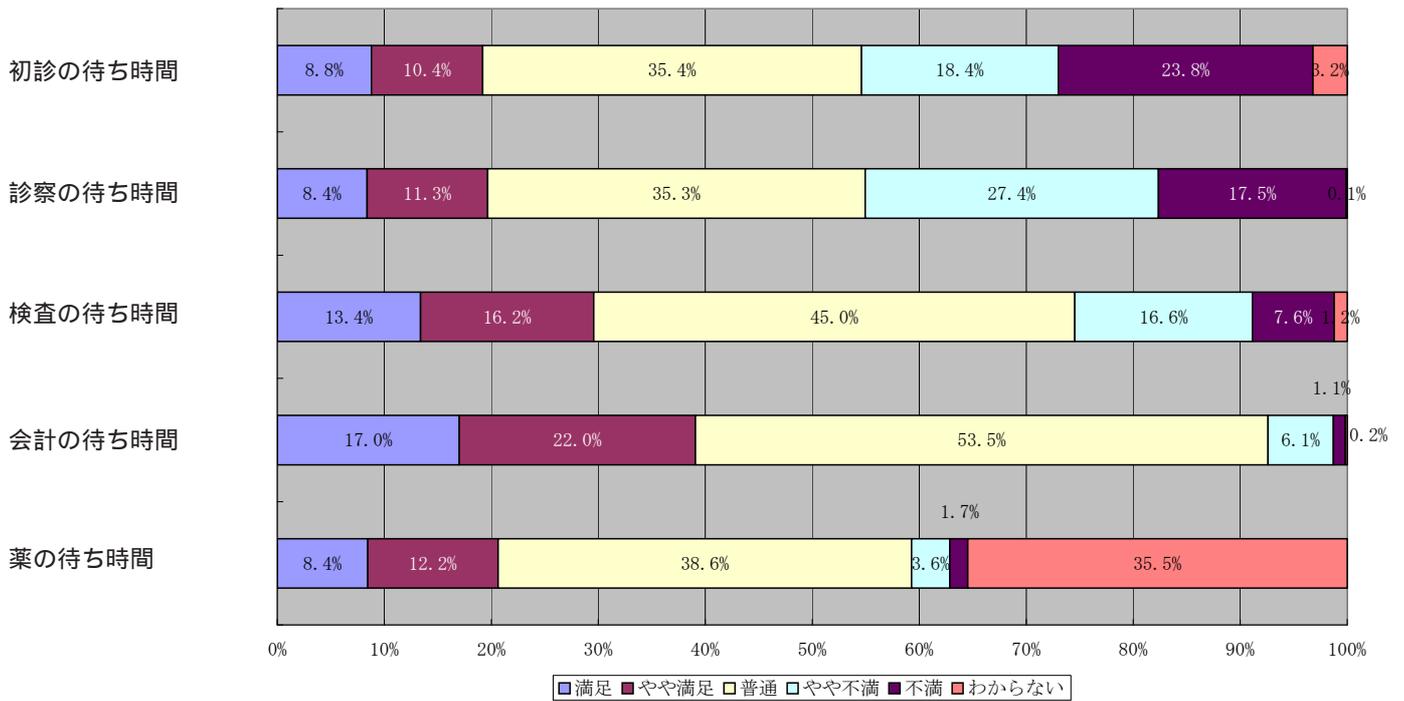
**(図1) 医師について**



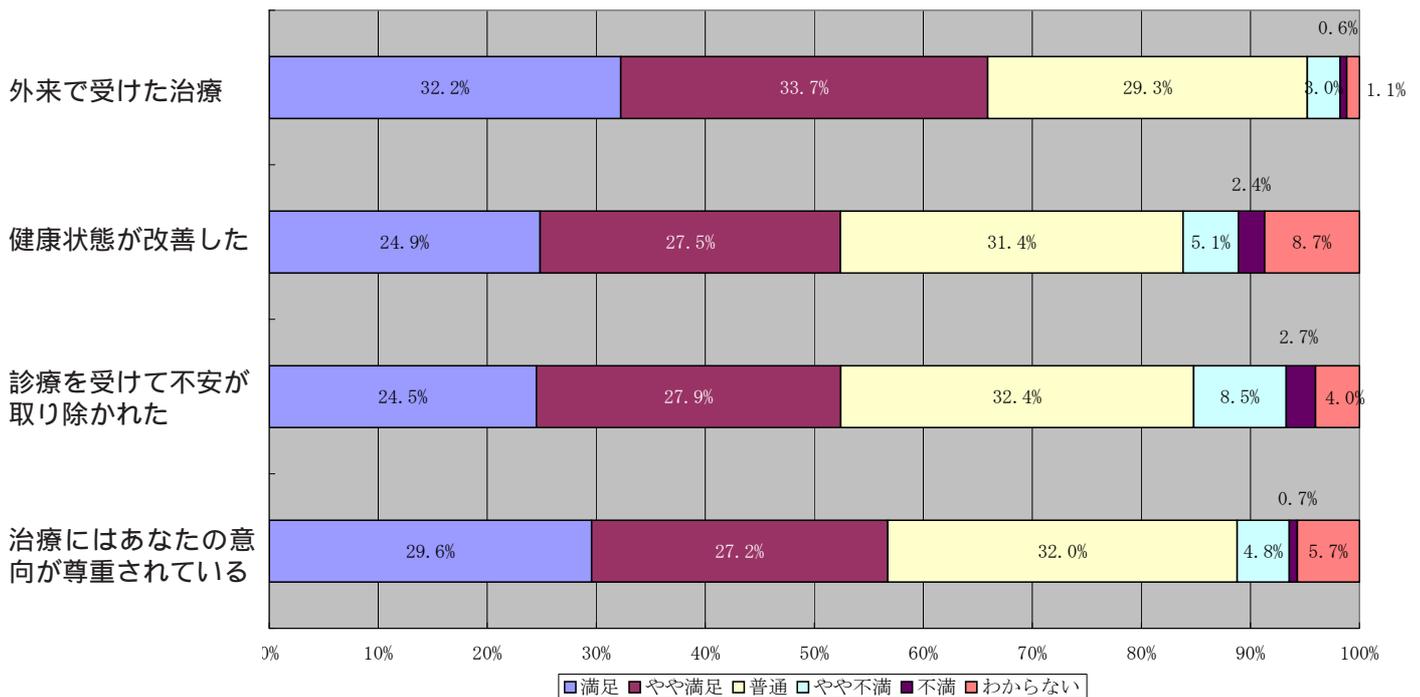
**(図2) 看護師について**



(図3) 待ち時間について



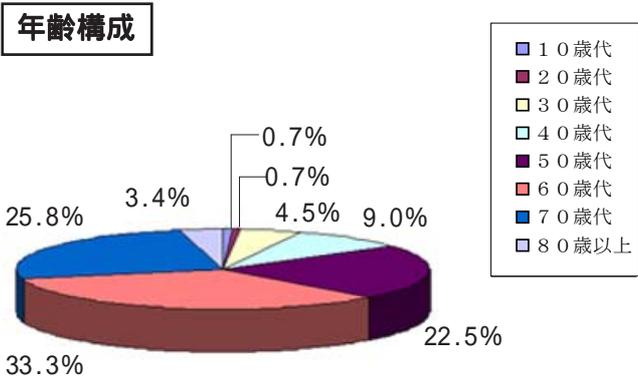
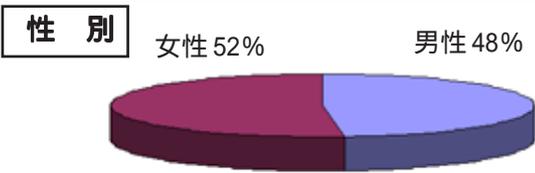
(図4) 全体的な満足度について



## 入院患者さん満足度調査結果報告

1 調査期間等：平成21年2月2日(月)～6日(金)  
調査へのご協力ありがとうございました。  
調査に了解いただいた362人の方に調査用紙を配布し、その内273人の方から回答いただきました。回収率は75.4%(78.1%)でした。

2 患者さんご自身について  
お答えいただいた結果では、女性が少し上回っていました。  
年齢では60歳代を中心に50歳代から70歳代で81.6%(73.4%)となっています。

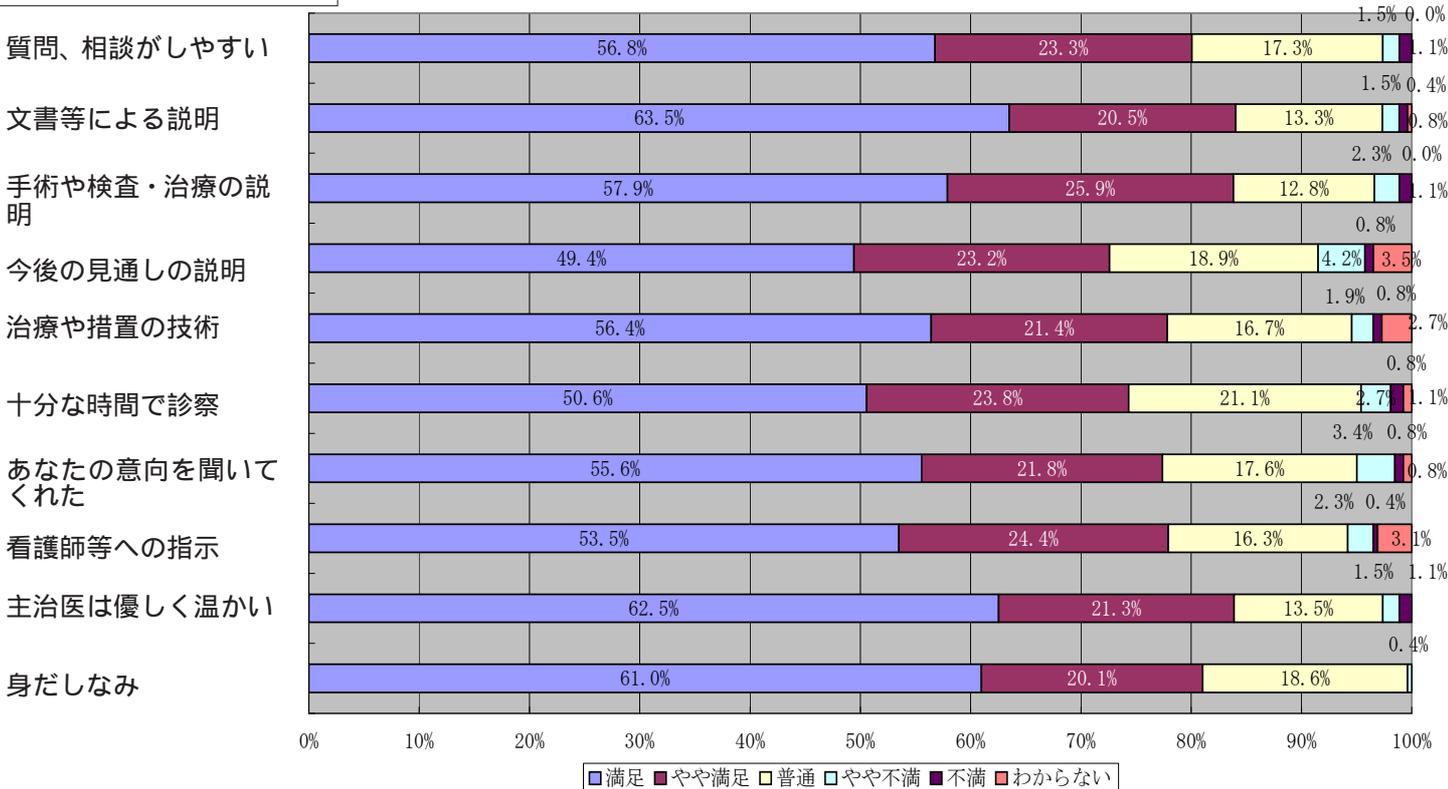


3 入院申し込みから入院までの日数  
 0～7日までは46.6%(44.1%)、8～14日までは17.4%(16.7%)、15～30日までは19.2%(21.9%)、31日以上は16.8%(17.1%)でした。昨年より若干ですが入院までの日数が短縮されていました。(図3)

4 職員の対応について  
 回答の中で「満足」と「やや満足」を合わせて「満足度」、「不満」と「やや不満」を合わせて「不満度」と表現します。

○「医師について」はほとんどの項目で「満足度」が80%を超えていました。「満足度」が低い項目は、「今後の見通しについて納得いく説明」で満足度は72.6%でした。(図1)

**(図1) 医師について**



○「看護師について」は医師と同じように「満足度」が80%を超えていました。「満足度」が低い項目は、「採血や注射処置の技術」で「満足度」は70%、「十分な時間を取って看護してくれた」は満足度70.7%でした。

職員の欠員や多忙さ等から、十分な時間が取れない場合があるなど影響していると思われます。(図2)

○ 外来と同じように過去3年のデータがある項目は、全体的に「満足度」が低下する一方「不満度」も低下し、「普通」のポイントが高い傾向がありました。

5 院内希望情報

当院での「治療件数」、「治療成績」、「主治医の治療経験」について知りたいと答えた方は「治療件数」では76.7%(68.6%)、「治療成績」では78.3%(76.7%)、「主治医の治療経験」では81.8%(76.9%)、「同じ病気の入院日数」では75.8%(58%)でした。昨年より知りたい方が大幅に増えています。(図4)

6 全体的な満足度

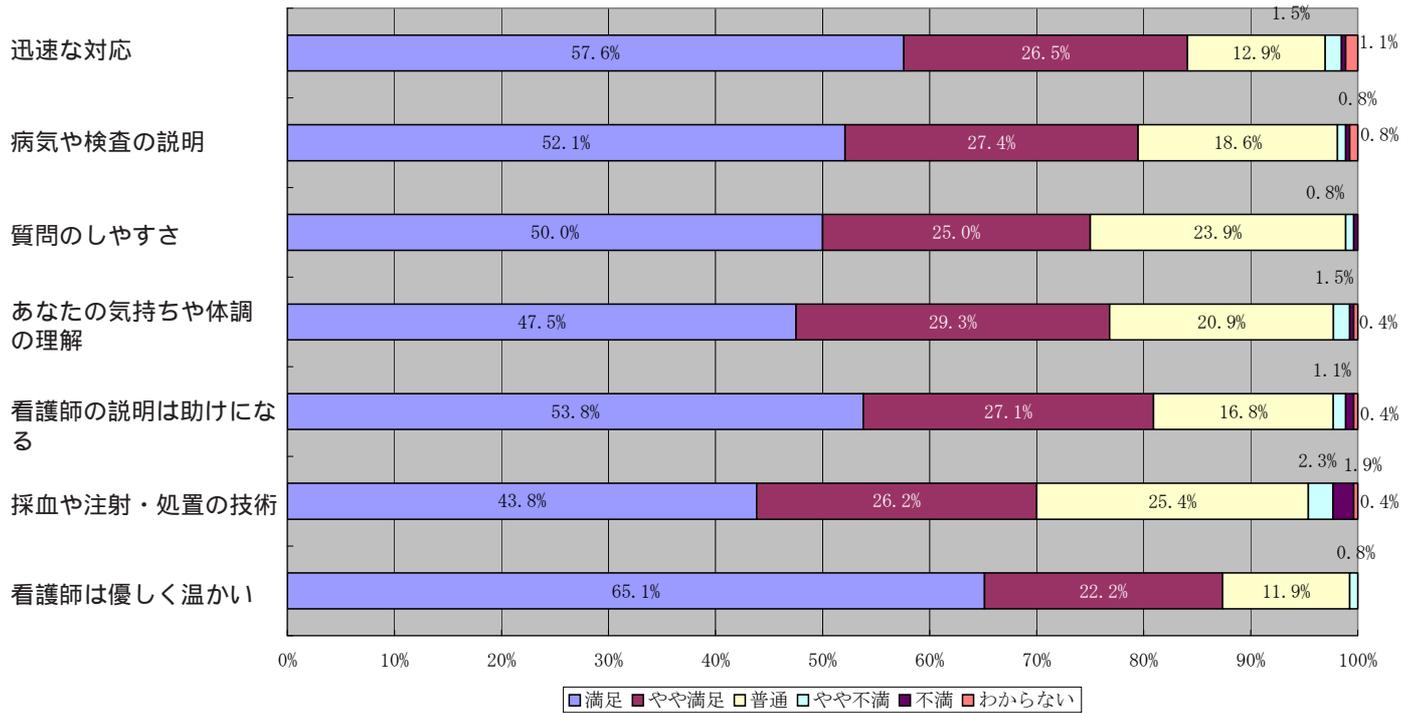
「入院中に受けた医療」について、「満足度」が76.8%でやや減り、「普通」が18.6%と増加しています。その他の項目でも「満足度」が減り、「普通」が増える傾向になっています。(図5)

7 終わりに

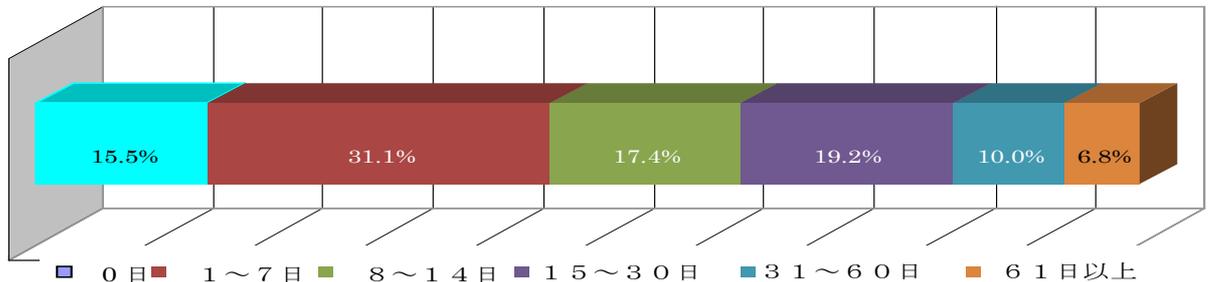
皆様からいただいたご意見をもとに検討を行い、改善に努めてまいります。

また、ご意見の中には感謝のお言葉もいただきましたが、今後ともより多くの患者さんからご満足いただけるよう努めてまいりたいと存じます。

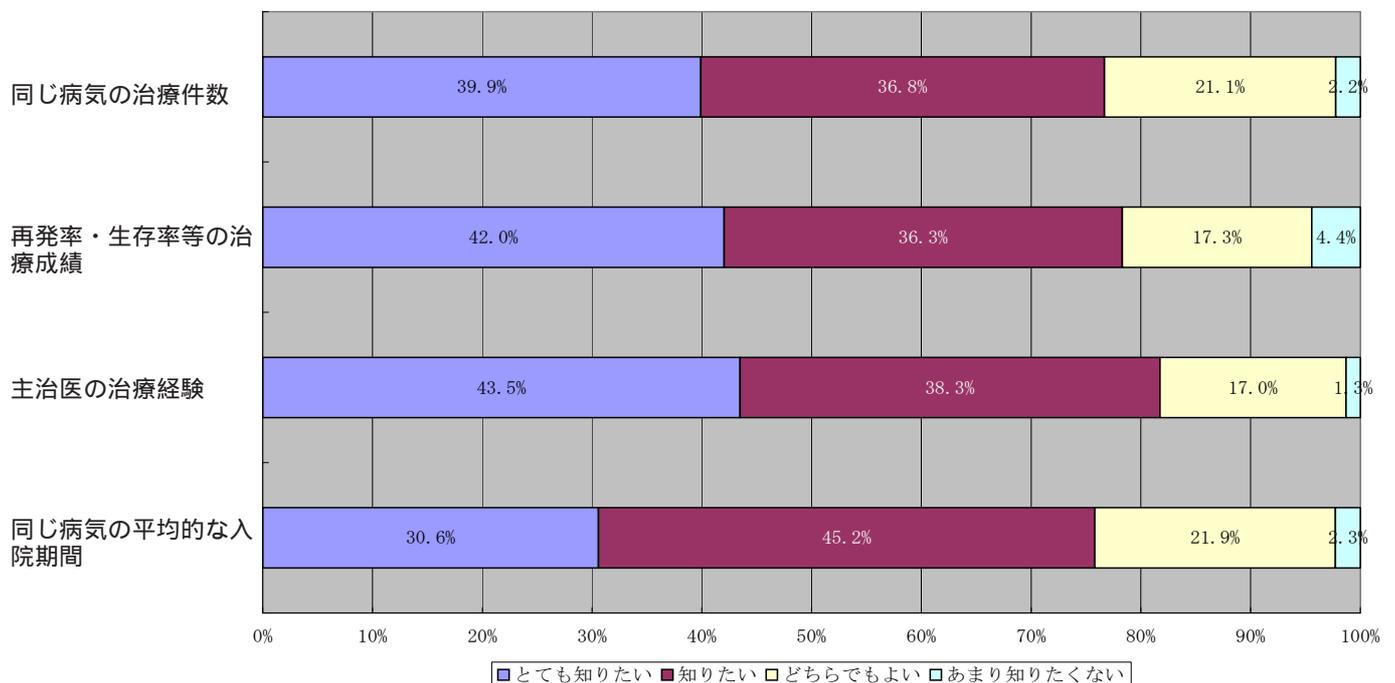
( 図 2 ) 看護師について



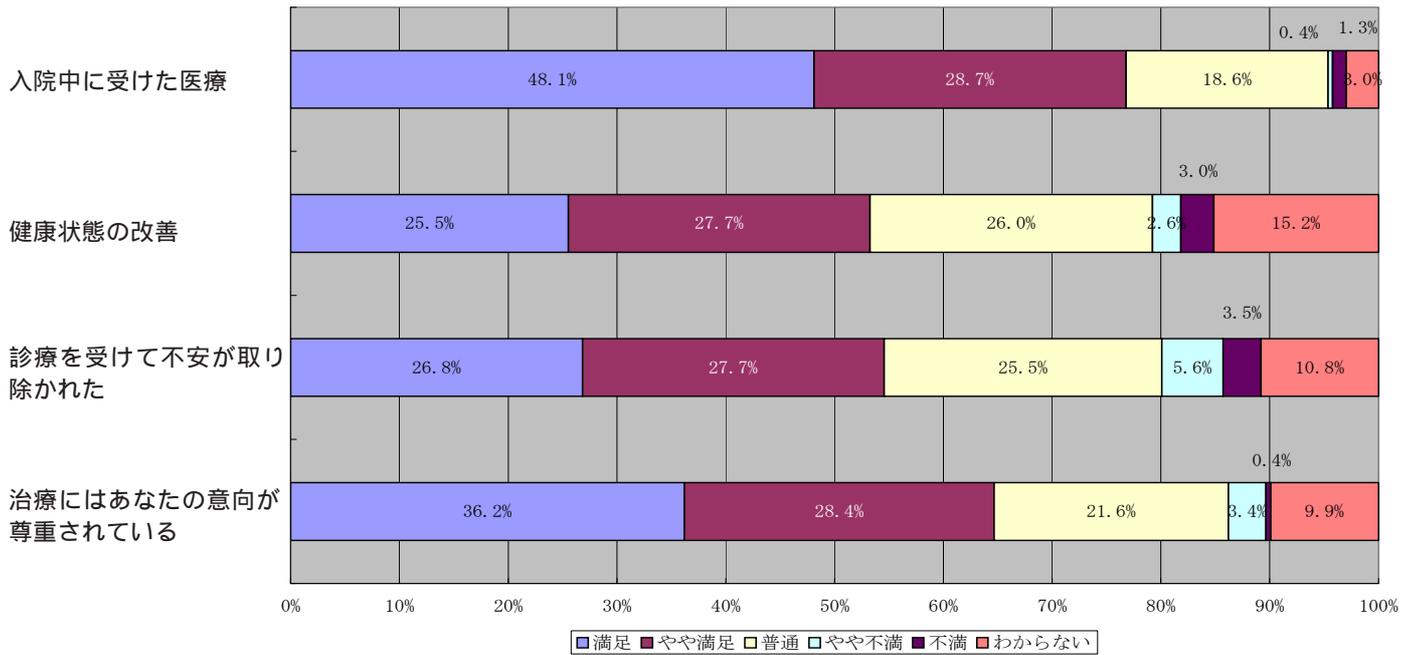
( 図 3 ) 入院申し込みから入院までの日数



( 図 4 ) 当院のどのような情報が必要でしょうか



(図5) 全体的な満足度について



### 入院患者さんの食事満足度調査結果報告

- 1 調査期間等：「入院患者さん満足度調査」に同じ
- 2 患者属性について：「入院患者さん満足度調査」に同じ
- 3 患者さんの状況について  
化学療法中の方がもっとも多く42.9%(37.9%)、次いで術後1週間以上13.2%(17.0%)、術後1週間未満12.5%(14.2%)でした。  
食事に影響を及ぼす可能性があると思われる症状は、食欲不振33.0%(24.5%)がもっとも多く、次いで便秘23.8%(20.6%)、吐き気15.0%(15.6%)でした。前年度と同じ傾向を示しています。
- 4 主食、副食、汁物について

内容については、「良い」及び「普通」を合わせて90%以上を占めた項目は副食の大きさ95.5%、副食盛り付け95.2%、副食量92.0%、副食色彩90.8%、主食味90.8%でした。「悪い」とした割合の高かった項目は、副食味付け24.3%、汁物味付け19.8%、汁物温度18.0%、副食温度16.5%の順でした。(図1)

主食は、「非常に満足」「満足」を合わせると(以下「満足度」といいます。)33.6%(31.4%)、「普通」が53.1%(49.0%)、「非常に不満」「不満」を合わせると(以下「不満度」といいます。)が13.3%(15.4%)でした。副食は、「満足度」が29.4%(31.4%)、「普通」が49.6%(43.2%)、「不満度」が21.1%(25.4

%)でした。また、汁物は、「満足度」が29.0%(25.9%)、「普通」が52.4%(52.7%)、「不満度」が18.5%(21.4%)でした。(図2)

#### 5 食事全体の満足度について

「満足度」が27.3%(29.5%)、「普通」が54.5%(48.0%)、「不満度」18.2%(22.5%)で昨年度より、「満足度」「不満度」が減少し、「普通」が増加しました。(図3)

#### 6 主な自由意見

メニューについて 特に副菜が単調9名ほかは、献立に取り入れて欲しいメニュー、献立から削除して欲しいメニューについて多くの意見が寄せられました。食事に対し「満足」の意見を複数いただきました。

#### 7 おわりに

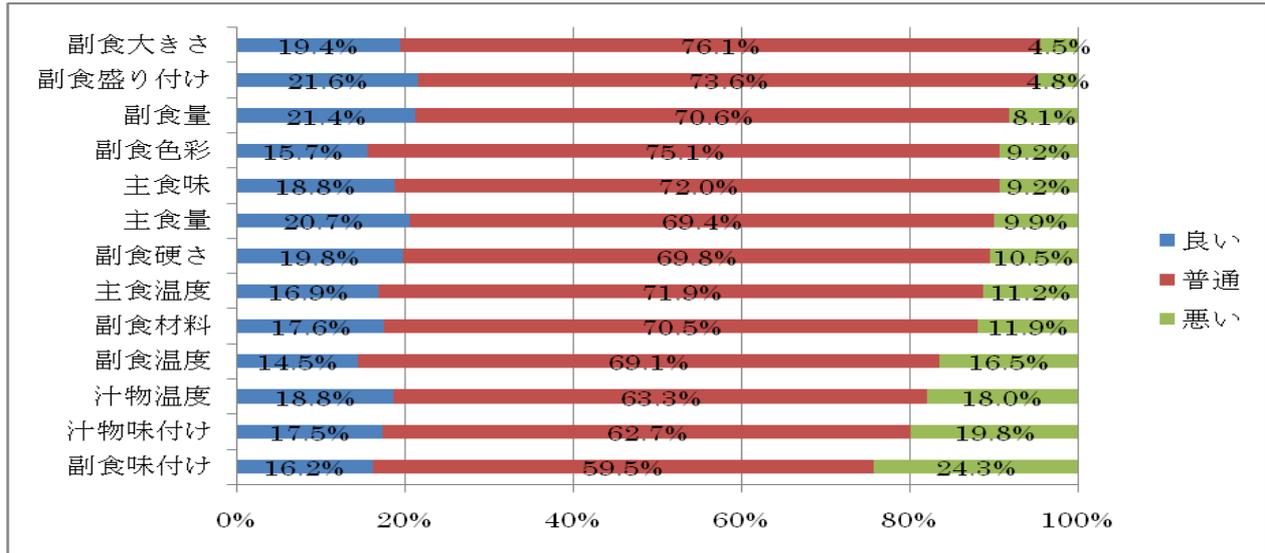
今回の調査で、主食、汁物で満足度の増加傾向が見られ、主食、副食、汁物の不満度はいずれも減少傾向が見られました。食事全体でも、不満を持たれた患者さんの減少傾向が見られました。

本調査で回答をいただいた方の食種は、19種類でした。病状によって、減塩でのご提供、食材の種類を限定してご提供させていただく場合がございます。

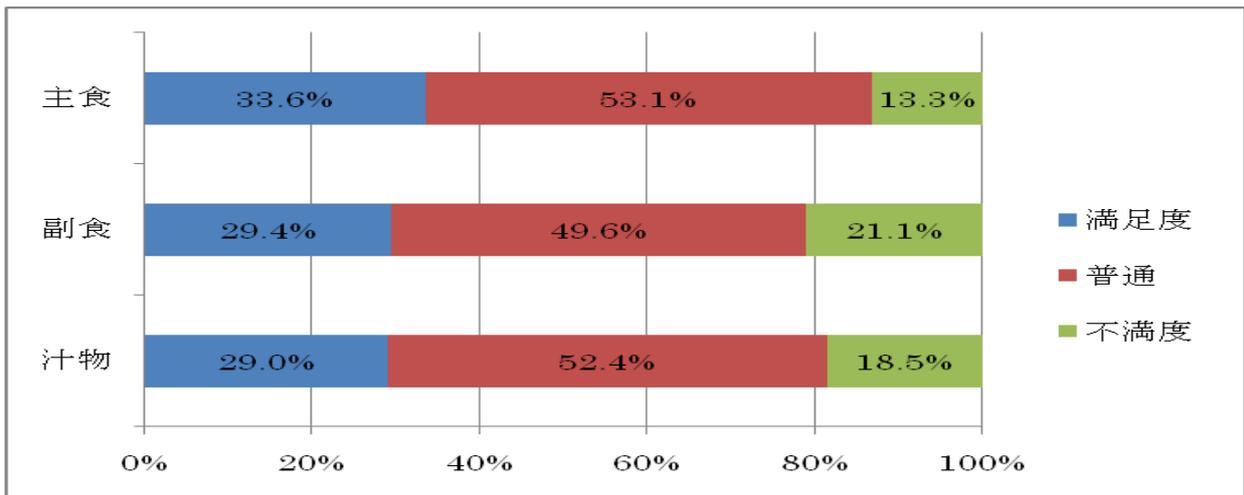
本調査の結果を基に検討を行い、献立、調理作業工程等に反映するなど、より多くの患者さんに満足いただくとともに不満度の減少にも努めてまいります。

# 1 主食、副食、汁物について

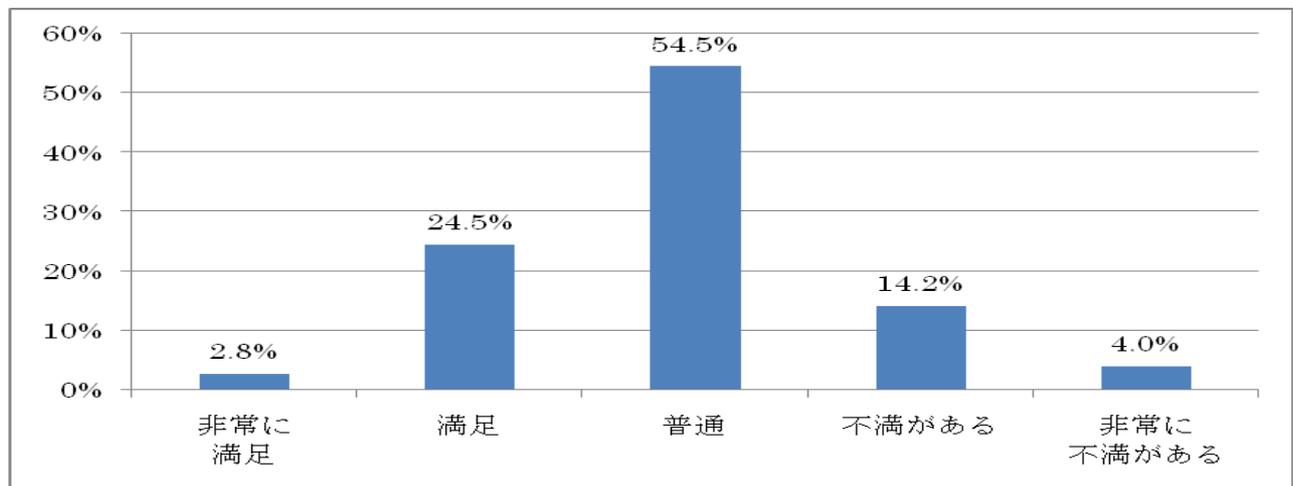
(図1) 内容について

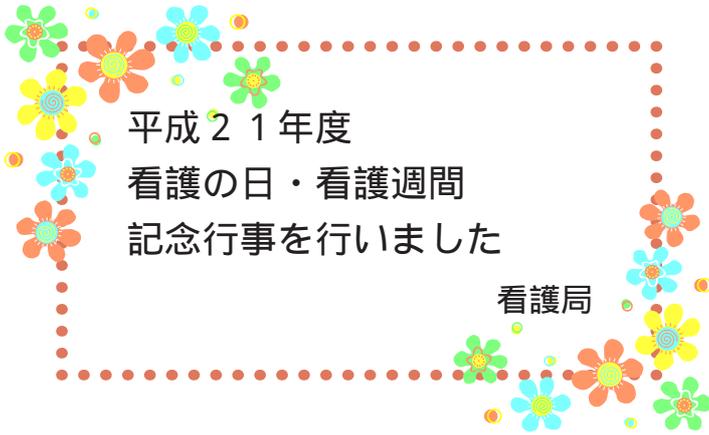


(図2) 主食、副食、汁物別評価



(図3) 食事全体の満足度について





平成21年度  
看護の日・看護週間  
記念行事を行いました

看護局

看護の日・看護記念週間行事は、5月12日のナイチンゲール生誕の日を看護の日とし、全国の看護師が主体として看護の心について多くの方に伝達・共感していただくために行う記念行事です。平成21年度は、5月10日(日)から16日(土)が看護週間でした。

がんセンターでも5月10日～15日に記念行事を全職員の協力のもとに実施しました。センター内では、病院の職業や職場の紹介をするポスターの掲示、患者さんから応募していただいた川柳の掲示、健康相談・健康チェック、ボランティア会ランパスの皆様にご協力を頂いたコンサート、記念講演会を行いました。

ポスターや川柳は、患者さん、ご面会の方のみならず職員も興味深く見入っています。川柳では入院や通院の患者さんの日常がつづられ、つらいことばかりのようでないながらユーモアのある表現に気持ちが明るくなります。健康相談・健康チェックは、薬剤師・栄養士・看護師が来場者の相談にのり、看護師が血圧や体脂肪を測定して日ごろの健康に役立てていただくという主旨で行っています。健康の事を誰かに相談したいと思いつながら出来ない場合が多いと思いますので、お役に立てれば幸いです。コンサートでは、ピアノ独奏 古沙織里(ぜつ さおり)さん、独唱ソプラノ 小島三恵子さん、伴奏 田村 郁子さんに出演していただきました。音楽を聴く方々のお顔は穏やかで、心地のよい音楽は人の心と体を癒す効果があることを実感させられました。5月15日の午後、旭区民文化センターサンハートにて講演会を行いました。講演テーマは、「がん」から学ぼう！がんの体験者・がん専門病院の看護師が伝えたい生きるヒントとして、講師には、患者会「コスモス」世話人代表 緒方真子さん、患者会「あけぼの」神奈川代表 牧野葉子さん、がんセンター医療相談支援室 清水奈緒美さんを迎えました。聴講者数213名と過去最高の人数を記録しました。がんになった貴重な、そして個人的な体験談と医療者のメッセージを伝える機会を持てた事、それを多くの方に聴いていただけたことは開催者として大変うれしく思いました。講師の皆さんは「がんになってもひとりじゃない、ひとりでがんばらなくてもいい」というメッセージを一貫して伝えてくださったように思います。

今後とも、看護の情熱を持ち、多くの皆様の健康に資するべく、看護の日・看護週間のイベントを行ってまいります。来年の5月12日に皆様の笑顔に会えることを心待ちにしています。今回、ご協力・ご参加くださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



第44回  
神奈川県看護賞を受賞して

看護局長 上田規子



この度神奈川県看護賞を受賞致しました。これも一重に、皆様のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

これまでの自分を振り返ってみますと、卒後3年目に、当時の成人病センターへの就職を転機として、「私にとって、看護はどんな意味があるのか?看護とは何か?」と言う疑問が生じ始めました。そして、ある乳がん患者さんとの出会いが、私の疑問を解決してくれることになりました。患者さん自身が、どんなに苦しくても、苦悩の中にある、自分の姿を二人の息子の脳裏に残しておきたいと言う事でした。自身を持って、自分の生き方を息子に示すというものでした。その事を通して、看護は、患者さんの苦痛の緩和を図りながら、患者さんと共に、人間としての生き方を学ぶ職業であり、私自身を成長に導くことが出来る職業であることに、看護の価値を見出せました。

それ以来、この職業に取り付かれたようです。そしてこれからも、どうぞ、皆様のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。

## 第50回 科学技術週間を終えて

企画調査室

科学技術週間参加行事として今年度で23回目となる公開講演会を旭区民文化センター「サンハート」において4月15日開催いたしました。今回は「新しいがんセンターに向けて 最新のがん治療と先端的な研究への取り組み」を表題として、赤池 信 副院長兼総合整備推進室長から平成25年中の整備を目標に計画を進めている「新しいがんセンターの概要」を、臨床研究所からは 菊地 慶司 主任研究員が「独自の基礎技術を臨床応用へ」と題し中皮腫の早期診断法の開発とがんの転移を阻止する薬剤の探索について、宮城 洋平 技幹が「抗がん剤の効きと副作用を予測する」と題し新しい遺伝子診断法の開発と臨床応用について、病院の医師からは 本村 茂樹 化学療法科部長が「がん薬物療法専門医と外来がん薬物療法」について、中山 優子 放射線治療科部長が「最新の放射線治療」についてそれぞれ講演をいたしました。特に臨床研究所の職員は来場いただいた方々に分かり易く聞いて頂くため予演会を開催するなど準備に相当苦勞されたようですが、当日は大方の御来場者にはご理解頂けたのではないかと考えております。

アンケートからは、40代から70代の方で来場者の85パーセントを占め幅広い年齢層の方に御来場いただいたこと(図1) また横浜市外の御来場者の方も20パーセントを越えていたことなどが読み取れました。お聴き下さった皆様からは「もっと話を聞きたかった」、「講演の回数を増やして欲しい」、「今後の治療の進



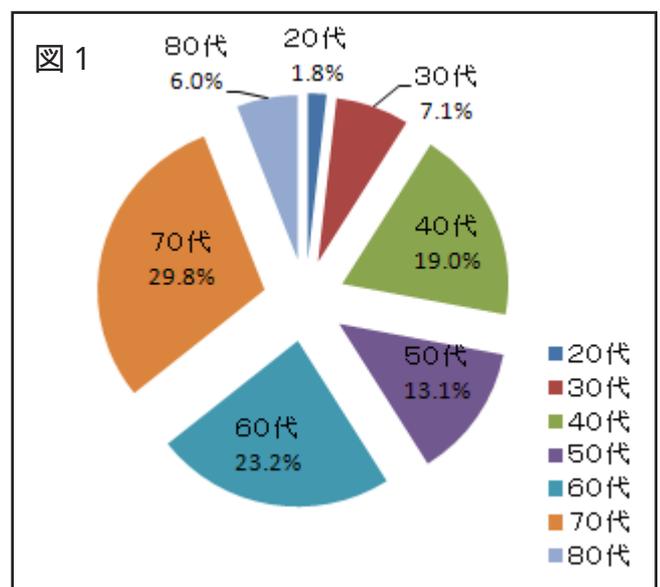
歩に期待を持てた」等の感想を頂き概ねご好評をいただけただようで開催者としては大変有難い事だと受け止めさせていただきました。

一方、「時間が短すぎる」、専門用語を少なくするなどして「もう少し分かり易く」等の御意見もあり、今後の参考にさせて頂きたいと思っております。

また、途中の質疑では新しいがんセンターに対する御質問も数多く頂き、県民の皆様の期待の大きさを肌で感じられました。

当日は、皆さんにお配りする資料を例年以上に用意し万全の準備を整えたつもりでした。しかし、一昨年の上乗りの倍以上となる250名余の来場を頂きうれしい悲鳴だったのですが、配布資料が不足してしまい一部来場者の方にお配りできなくなってしまうという事務局の不手際が生じてしまいました。大変御迷惑をお掛けしたことを、この場を借りてお詫びいたします。

来年度は当がんセンターも一般地方独立行政法人へと移行いたしますが、引き続き当講演会を開催する予定であります。これまでいただいた皆様の御意見・御感想を参考にがん医療、がん研究の最新の情報をより分かり易くお伝えするよう務めますので、来年度もまたよろしくお願い致します。



# 平成21年度 がん臨床講座

今年度も昨年度に引き続き「がん臨床講座」を開講しております。医療スタッフ、近隣の医師、薬剤師の方々、職種は問いません。興味のある内容の日にはお気軽にご参加ください。別表に今年度講義日程をお知らせします。

なお、参加をご希望される場合は事前にご連絡ください。

開講日 毎週水曜日 18時30分から19時30分  
 会場 神奈川県立がんセンター  
 管理医局棟2階応接室  
 連絡および問い合わせ先  
 神奈川県立がんセンター 企画調査室  
 電話 045-391-5761 (内線2510)



## ボランティア会ランパスによる患者さんのための 6・7月木曜ミニコンサート予定表

1回目PM1:30～2回目2:30～ 各20分前後

- 6月4日 上原 裕子 (ピアノ)
- 6月11日 丹沢 広樹 (ヴァイオリン)
- 6月18日 平川 恵美子 (ピアノ)
- 6月25日 美山 容子 (シャンソン)
- 7月2日 渡辺 恵未 (ピアノ独奏)
- 7月9日 沢本 静 (ソプラノ独唱)
- 7月16日 能登 弓美子 (マリンバ)
- 7月23日 佐山 真知子 (ソプラノ独唱)
- 7月30日 高尾 枝梨香・高尾 真里枝  
(ヴィオラとピアノアンサンブル)



## 編集後記

今号は、4月人事異動、満足度調査特集、看護週間の行事・講演会、科学技術週間の講演会、さらには好事として看護局長の受賞と、豊富な話題提供となりました。小林新病院長の巻頭言から、独法化に向けての職員一人一人の在り方が問われているように思われます。2月上旬の患者満足度調査は、外来調査では長い待ち時間のためか書くひまがあったため94%と高い回収率だったと解釈しましたが、満足度は低いと出てしまいました。今後改善していかなければなりません。入院

日付	授業名	講師名
4月15日(水)	化学療法の基本的理論	本村 茂樹
22日(水)	悪性リンパ腫	橋本 千寿子
5月13日(水)	原発不明癌	本村 茂樹
20日(水)	前立腺がん・膀胱がん	三浦 猛
27日(水)	医学統計学	岡本 直幸
6月3日(水)	肺がんの外科治療・トピックス	中山 治彦
10日(水)	腫瘍病理学	亀田 陽一
17日(水)	白血病	金森 平和
24日(水)	悪性腫瘍の疫学	岡本 直幸
7月1日(水)	RNA分子とがん	大津 敬
8日(水)	腫瘍生物学	宮城 洋平
15日(水)	脳腫瘍	林 明宗
9月9日(水)	放射線治療学	中山 優子
16日(水)	第I・II・III相臨床試験	円谷 彰
30日(水)	食道がん	青山 法夫
10月7日(水)	頭頸部がんの化学放射線治療	久保田 彰
14日(水)	骨軟部腫瘍	竹山 昌伸
28日(水)	肺がん・疫学と診断	山田 耕三
11月4日(水)	肺がん・治療	尾下 文浩
11日(水)	子宮頸がん	加藤 久盛
18日(水)	卵巣がん	小野瀬 亮
25日(水)	肝胆臓がん	上野 誠
12月2日(水)	腎がん・精巣腫瘍	岸田 健
9日(水)	緩和ケア	太田 周平/奥野 滋子
16日(水)	甲状腺がん	吉田 明
1月13日(水)	大腸がん	塩澤 学
20日(水)	内視鏡治療	本橋 修
27日(水)	乳がん	清水 哲
2月3日(水)	胃がん	高木 精一
10日(水)	放射線診断学	吉田 哲雄
17日(水)	皮膚がん	小川 徹
24日(水)	抗がん剤治療に必要な循環器知識	朝比奈 茂
3月3日(水)	予備日	
10日(水)	予備日	
17日(水)	予備日	

以下の講義は平成22年度以降とする  
 基礎編 psychooncology 1 講義  
 臨床編 小児腫瘍 1 講義

平成20年度2・3月および 平成21年度4月の1日平均患者数 (単位:人)			
区分	2月	3月	21年度4月
入院	350.1	360.8	352.2
外来	557.5	581.1	543.5

調査は75%の回収率でしたが、両方を通してみると、治療成績などの情報を知りたいという回答が多くありました。二つの講演会では多くの参加者においていただきましたが、科学技術週間関係では、思いのほか多くの参加者があり、用意していた資料が底をついてしまい、ご迷惑をかけてしまいました。事前調査もままならないので、今後どうするか考えねばならないところです。(企画情報部長 野田和正)

編集・発行 : 神奈川県立がんセンター 企画調査室  
 〒241 0815 横浜市旭区中尾1-1-2  
 TEL 045-391-5761 (内線2510)  
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/gan/index.htm>